

三井金属 知的資本経営の3カ年進化ストーリー：概念の提示から経営実装へ

2023年度：概念の提示と整備段階（22中計初年度）

2024年度：可視化とガバナンスの強化（創業150周年）

2025年度：経営網羅への完全統合（25中計開始）

未来への展望：今後の課題と機会



「マテリアルの知恵」を価値の源泉とし、既存事業の深化と新規事業の探求を両立させるビジネスモデルを提示した。



知的資本を「Input（投入資本）」として記載

登録特許件数：3,352件
研究開発費：123.6億円

知財・人的資本・DXの個別施策の開始



知的財産を「重要経営資源」と明示

トップメッセージにて、知財マネジメントを「知の探索・深化」の両方に役立つ具体的な経営資源として再定義した。

特許価値の定量的開示



人的資本と知財の接続
「人が知財を生み、知財を人が使う」という考えのもと、知財人材研修やキャリア自体を推進し、各資本の連携を強めた。

知的資本を「競争優位の中核」へ格上げ

知的資本が財務数値ではなく、25中計のKPI、資源配分、事業評価（ROIC Spread）と直結する実行テーマとなった。

新マテリアリティへの組み込み

- 知の探索による新市場創出
- 顧客価値を高める先端材料

DXとAIによる加速

生成AIやマテリアルズ・インフォマティクス（MI）を活用し、知の探索と深化を加速させる「デジタル普及期」に移行。

「資産の保有」から「事業成果への接続」へ

今後は知財価値が利益率や価格決定力、需要採用にどう貢献したかを証明する「知財KPI×事業KPI」の運動が焦点となる。

社会関係資本（顧客共創）の強化



材料供給者から、顧客の製品性能を左右する「設計パートナー」へと進化し、サステナビリティ領域での収益化を狙う。

2023年度：
概念の提示と整備段階
（22中計初年度）